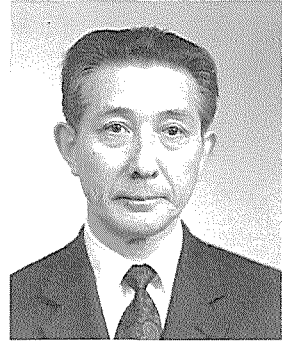


菊田茂男教授著作目録

平成五年三月
東北大学記念資料室
(著作目録第五一―号)

菊田茂男教授略歴



昭和四年六月一日

昭和二十四年四月

昭和二十七年三月

昭和二十七年四月

昭和二十八年三月

昭和二十九年四月

昭和三十一年五月

昭和五十一年四月

昭和五十一年五月

昭和五十九年四月

昭和六十二年四月

平成元年四月

秋田県

東北大学文学部(旧制)入学

東北大学文学部国文学科(旧制)卒業

東北大学文学部助手

秋田大学文学部助手(授業担当)

秋田大学文学部講師

東北大学文学部助教授

東北大学文学部教授、国文学講座担任

国語学講座兼任(昭和五十七年三月まで)

大学入試センター研究部教授(併任)(昭和五十六年三月まで)

日本思想史学講座兼任(昭和六十一年七月まで)

東北大学評議員(併任)(平成元年三月まで)

東北大学文学部長(併任)、東北大学大学院文学研究科長(併任)、

東北大学文学部附属日本文化研究施設長(併任)、東北大学評議員(併任)

(平成三年三月まで)

に生まれる

平成 三 年 六 月
平成 五 年 三 月

第十五期日本学術会議補欠の会員（第一部）（平成六年六月まで）
停年により東北大学教授を退官

昭和五十二年 三月

文部省在外研究員として、西ドイツ、アメリカ合衆国に出張
（昭和五十三年三月まで）

昭和五十二年 三月

西ドイツ、ボン大学客員研究員（昭和五十三年一月まで）

昭和五十三年 二月

アメリカ合衆国、カリフォルニア大学パークレー校客員研究員
（昭和五十三年三月まで）

平成 三 年 十 二 月

中華民国行政院国家科学委員会からの招聘により、
台湾を訪れ、学術講演を行う（八日間）

昭和三十六年 三月

教科用図書検定調査審議会調査員（昭和四十八年三月まで）

昭和四十六年 四月

日本学術会議選挙管理委員会委員（昭和五十年三月まで）

昭和五十四年 四月

大学入試センター教科専門委員会委員、国語部会長（昭和五十六年三月まで）

昭和五十五年 二月

学術審議会専門委員（昭和五十七年一月まで）

昭和五十八年 十一月

大学入試センター試験問題特別専門委員会委員、国語部会委員長
（平成元年三月まで）

昭和五十九年 四月

国文学研究資料館国文学文献資料収集計画委員会委員（昭和六十一年三月まで）

昭和六十三年 七月

近代文学館構想策定協議会委員（宮城県・仙台市）（平成元年八月まで）

平成 四 年 三 月

近代文学館基本計画策定委員会委員（宮城県・仙台市）（現在に至る）

昭和二十四年 七月

日本文芸研究会委員（現在に至る）

昭和五十五年 七月

日本文芸研究会代表委員（昭和五十九年六月まで）

昭和三十三年 四月

日本比較文学会委員（現在に至る）

昭和五十七年 四月

日本比較文学会理事、東北支部長（昭和六十年三月まで）

昭和四十二年 十月

中古文学会委員（現在に至る）

昭和六十三年 五月

日本文芸学会理事（現在に至る）

昭和五十四年 七月

東北大学国文学会会長（現在に至る）

著作目録

A 古典の部

I 著書・論文

蜻蛉日記の世界

『文芸研究』第一二集

昭和二八年二月

(再録 日本文学研究資料叢書『平安朝日記』I)

(共著) 〈有精堂、昭和四六年三月〉

蜻蛉日記における宗教的意識

——「わび」の美との関聯について——

『秋田大学文学部研究紀要』第四輯

昭和二九年三月

蜻蛉日記における「わび」

『平安文学研究』第一五輯

昭和二九年六月

蜻蛉日記の構成

『文化』第一九卷第四号

昭和三〇年七月

新講算物語(著書)

秋田大学国文学研究室

昭和三〇年七月

新講算物語 増訂版(著書)

秋田大学国文学研究室

昭和三一年一二月

算物語成立論

『文芸研究』第二六集

昭和三二年七月

新選萬葉古今新古今(共編著)

角川書店

昭和三三年一〇月

道綱母の文体〈特集「古典作家の文体」〉

『国文学』第五卷第一二号

昭和三五年一〇月

竹取物語における現実的意識

——報恩譚的構想の意義を中心として——

『文芸研究』第三六集

昭和三五年一〇月

平安時代初期物語の世界

——『竹取物語』を中心として——

『文化』第二六卷第一号

昭和三七年三月

新選萬葉新古今（共編著）

高山書店

昭和三七年八月

道綱母

——その愛の確執——〈特集「古典作家の謎」〉

『国文学』第九卷第一号

昭和三九年一月

算物語の構造についての試論

——算物語の研究（第一部）——

『東北大学文学部研究年報』第一四号

昭和三九年三月

『源氏物語』螢の巻の物語論

『文化』第三〇卷第二号

昭和四一年八月

平安時代における物語観

——『蜻蛉日記』・『三宝絵詞』を中心として——

『東北大学文学部研究年報』第一七号

昭和四二年三月

和歌と物語

扇畑忠雄・北住敏夫・峯岸義秋編『和歌の世界 その周辺と展開』（共著）

桜楓社

昭和四二年一月

愛と求道

——宇治十帖の世界〈特集「王朝物語文学の世界」〉

『国文学』第一二卷第一五号

昭和四二年二月

『蜻蛉日記』の表現についての試論

『文化』第三二卷第三号

昭和四四年一月

伊勢物語と大和物語

『国語セミナー』第一卷第六号

昭和四四年六月

源氏物語鈴虫（著書）

山岸徳平・今井源衛監修『宮内庁書陵部蔵青表紙本源氏物語』第三八卷

新 典 社

昭和四四年一〇月

〈源氏物語〉の藤壺の宮〈特集「作品に見る日本のおんな一〇一人」〉

『国文学』第一四卷第一四号

昭和四四年一〇月

〈源氏物語〉の葵の上〈特集「作品に見る日本のおんな一〇一人」〉

『国文学』第一四卷第一四号

昭和四四年一〇月

〈源氏物語〉の空蟬〈特集「作品に見る日本のおんな一〇一人」〉

『国文学』第一四卷第一四号

昭和四四年一〇月

更級日記——主題の把握——〈特集「古典文学作品論へのアプローチ」

『国文学』第一五卷第九号

昭和四五年七月

愛と死における人間〈特集「源氏物語における人間」

『国文学』第一六卷第七号

昭和四六年六月

東屋・浮舟・蜻蛉・手習・夢浮橋

山岸徳平・岡一男監修 『源氏物語講座』第四卷「各巻と人物Ⅱ」(共著)

有 精 堂

昭和四六年八月

土佐日記見聞抄

——その一——(翻刻)(菊地靖彦と共同)

『平安文学研究』第四六輯

昭和四六年六月

土佐日記見聞抄

——その二——(翻刻)(菊地靖彦と共同)

『平安文学研究』第四七輯

昭和四六年一月

敬語表現・人物関係の見分け

『文芸』第二六卷第九号

『学燈』第二六卷第九号

昭和四八年八月

源氏物語における愛と死

『文芸』第二六卷第九号

山形女子短期大学

昭和四八年一月

清少納言の物語観〈特集「文芸の理論」

良岑宗貞(遍昭)(上田秋成「春雨物語」〈天津処女〉)

『国文学』第一九卷第四号

昭和四九年三月

藤原時平(「大鏡」)〈特集「作品に見る日本歴史の一〇一人」

藤原時平(「大鏡」)〈特集「作品に見る日本歴史の一〇一人」

『国文学』第一九卷第四号

昭和四九年三月

枕草子の美意識

『枕草子講座』第一卷「清少納言とその文学」(共著)

有 精 堂

昭和五〇年一月

(一部再録 藤原宏・渡辺富美雄監修『国語資料図解理解事項事典』)

〈全教図 昭和六〇年四月〉

家の女——蜻蛉日記〈特集「王朝の女——〈思ひ〉と〈ことば〉と」

『国文学』第二〇卷第一六号

昭和五〇年一月

源氏物語における愛と死

『研究紀要』（秋田県高校教育研究会国語部会）昭和五〇年度

ものあはれの美意識

『国文学』第二一卷第七号

『源氏物語』の中の生活

『学燈』第二九卷第一七号（別冊No.3）

（再録 学燈編集部編『源氏物語に強くなる本』（共著）
〈学燈社、昭和五二年五月〉）

道綱母の精神的位相——『蜻蛉日記』の世界の基層——

『北住敏夫教授退官記念 日本文芸論叢』（編著者代表 菊田茂男）

笠間書院

昭和五一年一月

編年体 日本古典文学史

延喜二一年（九一一）～延喜二〇年（九二〇）

延喜二二年（九二一）～延喜八年（九三〇年）

承平元年（九三一）～天慶三年（九四〇）

『国文学』第二二卷第三号
（二月臨時増刊号）

昭和五二年二月

古代日本文芸における東北——叙事的作品を中心にして——（呉羽長と共同）

『東北大学日本文化研究所研究報告』別巻一六号

昭和五四年三月

話者はどこにいるか

——モノログとダイアログ〈特集「文体としての古典」〉

『国文学』第二五卷第三号

昭和五五年三月

物語幻想の崩落

——源氏物語との邂逅と離脱——（源氏から更級へ）

〈特集「蜻蛉日記と更級日記——女流日記文学の発生」〉

『国文学』第二六卷第一号

昭和五六年一月

道綱母の体験と蜻蛉日記の表現

『一冊の講座 蜻蛉日記』（日本の古典文学1）（共著）

有精堂

昭和五六年四月

王朝文学の特質 喪失と熟成の構図

——王朝文芸の美的基層〈特集「王朝文学史——絢爛たる創出」〉

『国文学』第二六卷第一二号

昭和五六年九月

ものあはれの美的構造——本居宣長の所説を補助線として——

『江戸中期の比較文化論的研究』（昭和五六年年度科研究研究成果報告書）

東北大学文学部附属日本文化研究施設

昭和五七年三月

源氏物語の〈末摘花〉——世づかぬしこめの矜持

〈特集「古典の中の女・一〇〇人」〉

『国文学』第二七卷第一三号

昭和五七年九月

源氏物語の〈明石の上〉

——身のほどに生きる幸い人〈特集「古典の中の女・一〇〇人」〉

同右

源氏物語作者紫式部論はいかに可能か 複式構造の意味するもの

〈特集「紫式部——源氏物語論への回路」〉

『国文学』第二七卷第一四号

昭和五七年一〇月

業平と小町

——その意味 みやびとことば〈特集「業平と小町」〉

『国文学』第二八卷第九号

昭和五八年七月

文章の構造 新しい読みを求めて

〈特集「源氏物語をどう読むか——現在から」〉

『国文学』第二八卷第一六号

昭和五八年一二月

『更級日記』の精神的基底

——物語的世界への同定と訣別——

『日本文芸論叢』第四号

昭和六〇年三月

小野小町〈特集「古典文学近代文学 作家の謎事典」〉

『国文学』九月臨時増刊号 第三一巻第一一号

昭和六一年九月

論評源氏物語 野分〈特集「日本の古典名文名場面一〇〇選」〉

『国文学』第三二巻第四号（三月臨時増刊号）

昭和六二年三月

論評源氏物語 若菜下〈特集「日本の古典名文名場面一〇〇選」〉

同 右

論評源氏物語 夕顔へ特集「日本の古典名文名場面100選」

同 右

『土佐日記』成立前史

——貫之の嘆訴の背景

『月刊国語教育』第七卷第一号

昭和六二年四月

『土佐日記』歌物語説存疑

——『伊勢物語』と『大和物語』の視座から

『月刊国語教育』第七卷第二号

昭和六二年五月

王朝女流日記と近代文芸

——『土佐日記』の精神的構図

『月刊国語教育』第七卷第三号

昭和六二年六月

——幻影としての京の崩落

『月刊国語教育』第七卷第六号

昭和六二年九月

『土佐日記』の世界

——亡児追懐の意味するもの

『月刊国語教育』第七卷第七号

昭和六二年一〇月

求道と愛執

——橋姫・椎本・総角へ特集「源氏物語の巻々・作品論の現在」

『国文学』第三二卷第一三号

昭和六二年一月

東北大学附属図書館所蔵仮名草子書誌解題目録稿（菊田茂男監修、高橋清隆編述）

『日本文芸論叢』第六号別冊

昭和六三年三月

「枕草子」の美意識

へ特集「枕草子」——見立て・引用・喩へ

『国文学』第三三卷第五号

昭和六三年四月

『土佐日記』の世界

日本文芸学会創立二十五周年記念論集

日本文芸学会編『日本文芸学の体系』（共著）

弘文堂

昭和六三年一月

みやび

秋山虔編『源氏物語事典』（別冊国文学No.36）（共著）

平成元年五月

『源氏物語』の美意識

——「みやび」——

山形女子短期大学

平成二年九月

『更級日記』における物語体験

木村正中編『論集日記文学 日記文学の方法と展開』（共著）

笠間書院

平成三年四月

「源氏物語」の中の生活

『学燈』第四四卷第一〇号（八月増刊号）

平成三年八月

日本古典文芸のなかの女性たち

——女性像の系譜——

『日本古典文芸にみる女性像』（菊田茂男ほか共著）

東北大学教育学部附属
大学教育開放センター

平成三年九月

宮仕え女房の栄光と挫折

——『枕草子』の美意識——

同 右

『源氏物語』のなかの女君

——薫の愛した女性たち——

同 右

日本古典文芸にみる女性像の系譜

『日本語日本文学』第一八輯（台湾・輔仁大学）

平成四年四月

『土佐日記』の精神的構図

『文芸研究』第一三二集

平成五年一月

II 解説・解題・研究史・学界展望

後鳥羽院

日本文芸研究会編『日本詩歌の鑑賞』上（共著）

東径書房

昭和三十一年四月

式子内親王

同 右

蜻蛉日記（かけろふのにき）

岡崎義恵編『国語 古典』

日本書院

昭和三十九年三月

紫式部日記（秋のけはひの立つまに）

同 右

中古文学〈特集「昭和四十年国語国文学界の展望」〉

『文学・語学』第三九号

昭和四十一年三月

中古日記・随筆研究の現段階〈特集「文学史研究の現段階」〉

『国文学』第二二卷第六号

昭和四十二年五月

平安時代〈日記・随筆・歴史物語〉〈「目で見る文学史」〉

『学燈』第三卷第六号

昭和四十五年六月

篁日記

『万有百科大事典』第一卷「文学」

小学館

昭和四十八年八月

竹取物語

同 右

大和物語

同 右

更級日記

佐藤喜代治編『国語学研究事典』

明治書院

昭和五十二年一月

堤中納言物語

同 右

石清水物語

同 右

弁内侍日記

同 右

十六夜日記

同 右

中務内侍日記

同 右

説話

『日本文学史辞典』

京都書房

昭和五七年九月

伝説

同 右

小野篁

『日本古典文学大辞典』第一卷

岩波書店

昭和五八年一〇月

算物語

同 右 第四卷

〔再録 』日本古典文学大辞典簡約版』(岩波書店、昭和六一年一二月)

学界時評——中古

『国文学』第二四卷第一号

昭和五四年一月

学界時評——中古

『国文学』第二四卷第八号

昭和五四年七月

学界時評——中古

『国文学』第二五卷第一号

昭和五五年一月

学界時評——中古

『国文学』第二五卷第八号

昭和五五年七月

学界時評——中古

『国文学』第二六卷第一号

昭和五六年一月

学界時評——中古

『国文学』第二六卷第九号

昭和五六年七月

学界時評——中古

『国文学』第二七卷第一号

昭和五七年一月

学界時評——中古

『国文学』第二七卷第八号

昭和五七年七月

学界時評——中古

『国文学』第二八卷第一号

昭和五八年一月

学界時評——中古

『国文学』第二八卷第九号

昭和五八年七月

学界時評——中古

『国文学』第二九卷第一号

昭和五九年一月

学界時評——中古

『国文学』第二九卷第八号

昭和五九年七月

学界時評——中古
 学界時評——中古
 学界時評——中古
 学界時評——中古
 学界時評——中古
 学界時評——中古
 学界時評——中古
 学界時評——中古
 学界時評——中古
 学界時評——中古
 学界時評——中古
 学界時評——中古
 学界時評——中古
 学界時評——中古
 学界時評——中古
 学界時評——中古
 学界時評——中古
 学界時評——中古
 学界時評——中古
 学界時評——中古
 学界時評——中古

『国文学』第三〇卷第一号
 『国文学』第三〇卷第八号
 『国文学』第三一卷第一号
 『国文学』第三一卷第八号
 『国文学』第三二卷第一号
 『国文学』第三二卷第八号
 『国文学』第三三卷第一号
 『国文学』第三三卷第八号
 『国文学』第三四卷第一号
 『国文学』第三四卷第八号
 『国文学』第三五卷第一号
 『国文学』第三五卷第八号
 『国文学』第三六卷第一号
 『国文学』第三六卷第八号
 『国文学』第三七卷第一号
 『国文学』第三七卷第八号
 『国文学』第三八卷第一号

昭和六〇年一月
 昭和六〇年七月
 昭和六一年一月
 昭和六一年七月
 昭和六二年一月
 昭和六二年七月
 昭和六三年一月
 昭和六三年七月
 昭和六三年七月
 昭和六三年七月
 昭和六三年七月
 昭和六三年七月
 昭和六三年七月
 昭和六三年七月
 昭和六三年七月
 昭和六三年七月
 昭和六三年七月
 昭和六三年七月
 昭和六三年七月
 昭和六三年七月
 昭和六三年七月
 昭和六三年七月

III 書 評

小松茂人著『中世軍記物の研究』

『河北新報』

昭和三七年三月二日

小松茂人著『中世軍記物の研究』

『文化』第二六卷第二号

昭和三十七年七月

重松信弘著『源氏物語の構想と鑑賞』

『文芸研究』第四三集

昭和三十八年三月

峯岸義秋著『平安時代和歌文学の研究』

『東北大学新聞』

昭和四〇年五月一〇日

岡田松之助著『日本文芸の精神』

『文芸研究』第五六集

昭和四二年七月

秋山虔著『王朝女流文学の形成』

『国文学』第一二卷第一〇号

昭和四二年八月

秋山虔著『王朝女流文学の世界』

『国文学』第一七卷第一四号

昭和四七年十一月

上坂信男著『源氏物語——その心象序説——』

『国文学研究』(早稲田大学国文学会)

昭和五〇年二月

市古貞次責任編集、秋山虔編『日本文学史？〈中古〉』

『国文学』第二三卷第九号

昭和五三年七月

阿部秋生ほか校注・訳『源氏物語(二)』(完訳日本の古典15)

『週刊読書人』第一五二二号

昭和五九年三月五日

丸山キヨ子著『源氏物語の仏教——その宗教性の考察と源泉となる教説についての探究——』

『平安文学研究』第七四輯

昭和六〇年一二月

竹原崇雄著『宇津保物語の成立と構造』

『文芸研究』第一三〇集

平成四年五月

新田孝子著『多武峰少将物語の様式』

『日本文芸論叢』第九・一〇合併号

平成五年三月

錦 仁著『中世和歌の研究』

同 右

B 近代の部

I 著書・論文

堀辰雄の文芸観

『文芸研究』第一四集

昭和二八年九月

二つの手紙

——堀辰雄雜記——

『秋大文学』第三卷第二号

昭和二八年一月

明治詩史概見

——日本近代詩の播鑑——

『秋大文学』第四卷第二号

昭和二九年一月

マルクシズム芸術理論の動向

『秋大文学』第五卷第二号

昭和三〇年一月

文芸と道徳

『秋田警察』第一卷第二号

昭和三一年二月

『パンテオン』の詩運動

『秋田大学国語国文学紀要』第三輯

昭和三一年三月

文芸を創造する力

——古典と現代をつなぐもの——（その一）

『秋田警察』第一卷第四号

昭和三一年四月

文芸を創造する力

——古典と現代をつなぐもの——（その二）

『秋田警察』第一卷第五号

昭和三一年五月

芥川龍之介とブラウニング

——「袈裟と盛遠」を中心として——（上）

『東北大学文学部研究年報』第九号

昭和三四年一月

（再録 吉田精一・福田陸太郎監修『比較文学研究叢書』第一卷

芥川龍之介』（共著）朝日出版社、昭和五一年三月）

（一部再録 藤原宏・渡辺富美雄監修『国語資料図解理解事項事典』

〈全教図、昭和六〇年四月〉）

芥川龍之介とブラウニング

——「袈裟と盛遠」を中心として——（下）

『東北大学文学部研究年報』第一〇号

昭和三五年二月

（再録・一部再録 同 右）

芥川龍之介「運」の典拠

——『今昔物語』及び森鷗外訳「セマンツアマニ」との比較研究——

『国文学』第四卷第三号

昭和三四年二月

土居光知〈特集「近代評論の系譜」〉

『国文学』第五卷第一三三号

昭和三五年一月

岩城準太郎と岡崎義恵〈特集「近代日本文学研究史」〉

『国文学』第六卷第一二号

昭和三十六年一〇月

三島由紀夫

木俣修・川副国基・長谷川泉編『人と作品 現代文学講座 一〇集 昭和編Ⅲ』(共著)

明治書院

昭和三十九年六月

田宮 虎彦

同 右

志賀直哉とメーテルリンク

——調和的精神の形成についての序説——

『文芸研究』第四九集

昭和四〇年二月

(再録 日本文学研究資料叢書『志賀直哉Ⅱ』(共著)〈有精堂、昭和五三年一〇月〉)

漱石の蔵書〈特集「夏目漱石と英文学」〉

『英語青年』第一一二卷第七号

昭和四一年七月

近代文芸の形成

石田一良編『日本文化史概論』(共著)

吉川弘文館

昭和四三年三月

王朝女流日記と近代文学〈特集「王朝女流日記の詩と真実」〉

『国文学』第一四卷第六号

昭和四四年五月

芥川龍之介の歴史小説の方法(上)

——「運」の成立を中心として——

『比較文学』第一四卷

昭和四六年一〇月

小倉時代の鷗外年譜雑考

(再録 『シリーズ文学④ 夏目漱石・森鷗外の文学』(共著)

『解釈』第一七卷第一二号

昭和四六年一二月

〈教育出版センター、昭和四八年三月〉)

日本の古典文学と近代女流の文学〈特集「近代女流の文学」〉

『国文学解釈と鑑賞』第三七卷第三号

昭和四七年三月

志賀直哉の作風についての序章

(再録 『シリーズ文学⑦ 志賀直哉・有島武郎の文学』(共著)

『解釈』第一八卷第七号

昭和四七年七月

〈教育出版センター、昭和四八年五月〉)

谷崎潤一郎の「源氏物語」現代語訳〈特集「文壇史事典」〉

『国文学解釈と鑑賞』第三七卷第九号

昭和四七年七月

〔再録 長谷川泉編『文壇史事典』（共著）〈至文堂、昭和四七年一〇月〉〕

志賀直哉とキリスト教

——内村鑑三との関係を中心として——

『東北大学文学部研究年報』第二三号

昭和四九年三月

元政（中村真一郎「雲のゆき来」）〈特集「作品に見る日本歴史の一〇一人」〉

『国文学』第一九卷第四号

昭和四九年三月

西郷隆盛（真山青果「江戸城総攻」）

同 右

上田敏とメーテルリンク

『文芸研究』第七九集

昭和五〇年五月

メーテルリンク

福田光治・剣持武彦・小玉晃一編

『欧米作家と日本近代文学 第三卷 ロシア・南欧篇』（共著）

教育出版センター

昭和五一年一月

民話

——木地屋衆——（談話筆録）毎日新聞社編『東北人』

毎日新聞社

昭和五一年四月

文芸学

——山岸徳平編『日本文学研究のために——』（共著）

新 典 社

昭和五二年三月

仙台時代の北杜夫に関する資料稿

——『文学集団』への投稿を中心として——

『東北文化研究室紀要』第一八集

昭和五二年三月

日本近代文学の形成と外国文学

——比較文学への招待——

『日本近代文学の形成と外国文学』（菊田茂男ほか共著）

東北大学教育学部附属大学教育開放センター

昭和五四年九月

志賀直哉とメーテルリンク

同 右

日本文学の世界化

——西洋文学のなかへ——

同 右

西洋文芸のうちなる日本

——リルケの世界——

『作品論の試み』

山形女子短期大学

昭和五五年一〇月

一葉のなかの〈王朝〉

——その古典体験の意味するもの〈特集「女流の前線」〉

『国文学』第二五卷第一五号

昭和五五年一二月

図説漱石大観（監修吉田精一・荒正人・北山正迪、菊田茂男ほか共著）

角川書店

昭和五六年五月

漱石の身辺自筆資料

——東北大学附属図書館所蔵「漱石文庫」の日記・断片・蔵書書き入れ・草稿等を中心として——

同 右

身辺自筆資料——英作文・草稿、日記・断片、蔵書書き入れ、雑録・下書き、原稿——

図版解説(Ueno Park, ブッセ教授への別離の挨拶、Life's Dialogue、人生論覚エ書キ、

大要、創作ト批評、Moral Feelings、東西文学ノ違、超脱生死、渡航日記、滞英日記、

滞英時代の断片、俳諧手帳の断片、手帳の断片、日記、長与胃腸病院入院日記、修善寺

大患日記、断片、京都旅行日記、禅門法語集、The Picture of Dorian Gray, Vain

Beauty, Hamlet, Rudin, The Undying Past, Regina, The Tragic Comedians, The

Maneuvers of Jane, Civilization and Progress, 金の貸付簿、貸した本、小遣帳、博士

号辞退書簡、手帳の句稿、漢詩草稿、『文学論』序、『吾輩ハ猫デアル』序、等六八点解説

同 右

岡崎義恵博士著作解題 続篇（編著者代表 菊田茂男）

東北大学文学部国文学研究室

昭和六一年八月

岡崎義恵

——日本文芸学の提唱〈特集「統・古典学者の群像——明治から昭和戦前まで」

『国文学解釈と鑑賞』第五七卷第八号

平成四年八月

円環する心の遍歴

——日本近代文芸における生と死——

『人間、その生と死』（共著）

東北大学教育学部附属大学教育開放センター

平成四年九月

II 解説・解題・研究史・学界展望

国文学界の瓊末主義

——訓詁注釈への転落——

『東北大学新聞』

昭和三七年一〇月二五日

岡崎義恵著『日本芸術思潮』全三卷五冊〈本は生きている〉一八〇

『国文学解釈と鑑賞』第二九卷第一〇号

昭和三九年九月

志賀直哉の調和的精神

——メーテルリンクの影響を中心として——

『日本比較文学会会報』第四〇号

昭和四〇年一月

岡崎義恵著『鷗外と諦念』上・下（日本芸術思潮第三卷）

『岡崎義恵博士著作解題』（共著）

宝文館出版

昭和四五年一〇月

岡崎義恵「十人の婢——『小倉日記』に現れた女性——」（『鷗外全集月報』一八）

同 右

岡崎義恵「森鷗外の諦念」（『心』昭和四三年八月）

同 右

岡崎義恵「鷗外の初期における諦念」（『心』昭和四三年九月）

同 右

岡崎義恵「成熟期における鷗外の諦念」（『心』昭和四三年一〇月）

同 右

岡崎義恵「諦念の心理分析」(『心』昭和四三年十一月)
同 右

岡崎義恵「諦念の文芸学的考察」(『心』昭和四四年一月)
同 右

岡崎義恵「諦念の三段階と問題点」(『心』昭和四四年二月)
同 右

伊東彰夫「『長秋詠藻』における藤原俊成の歌——その『家』の意識を中心として——」
の評及び推薦のことば
『解釈』第一八卷第七号

昭和四七年七月

加藤二郎「寺田寅彦の漱石像」の評及び推薦のことば

『解釈』第一九卷第一号

昭和四八年十一月

小田切秀雄著『文学的立場と政治的立場』
遠藤元男編『日本史研究書総覧』(共著)

名著出版社

昭和五〇年一二月

古川久著『明治能楽史序説』
同 右

塩田良平著『現代日本文芸史』
同 右

柳田泉著『明治初期の文学思想』(上巻・下巻)
同 右

塩田良平著『樋口一葉研究』
同 右

吉田精一著『自然主義の研究』(上巻・下巻)
同 右

秋庭太郎著『日本新劇史』（上巻・下巻）

同 右

開国百年記念事業会編『明治文化史9 音楽演芸編』

同 右

中村光夫著『谷崎潤一郎論』

同 右

唐木順三著『森鷗外』

同 右

中村光夫著『風俗小説論』

同 右

吉田精一著『永井荷風』

同 右

吉田精一著『近代日本浪漫主義研究』

同 右

小宮豊隆著『夏目漱石』

同 右

唐木順三著『現代日本文学序説』

同 右

岡崎 義恵

日本近代文学館編『日本近代文学大事典』第一巻

（増補、再録『日本近代文学大事典机上版』〈講談社、昭和五九年一〇月〉）

講談社

日本近代文学とメーテルランク

日本近代文学館編『日本近代文学大事典』第四巻

昭和五二年一月

昭和五二年一月

ボン大学（西ドイツ）〈世界の大学・36〉

『諸君！』第九卷第一二号

昭和五二年一二月

メーテルリンク

松田穰編『比較文学辞典』

東京堂出版

昭和五三年一月

岡崎義恵著『鷗外と諦念』（回想・この一冊——一〇四）

『国文学』第二四卷第三号

昭和五四年三月

岡崎義恵先生追悼

『国文学』第二七卷第一五号

昭和五七年一月

国語科教育の初歩

『解釈』第二九卷第一〇号

昭和五八年一〇月

適訳の難しさ

『解釈』第三一巻第一号

昭和六〇年一月

林水福著『讃岐典侍日記研究序説』解説に代えて

林水福著『讃岐典侍日記研究序説』

昭和六一年三月

岡崎義恵歌碑〈名所記念碑シリーズⅣ〉

『広報』No.129（東北大学広報委員会）

昭和六三年五月

峯岸 義秋

角田文衛監修『平安時代史事典』

角川書店

（近刊）

Ⅲ 評 論

「自由学校」視察（上）（下）

『新北仙』

昭和二五年五月

東北の新人作家

『秋田魁新報』

昭和二五年一月八日

批評の問題——文芸批評家への注文——（上）（下）

『秋田魁新報』

昭和二六年九月二日・五日

東北の文芸活動——一九五一年を回顧して——

『秋田魁新報』

昭和二六年二月一日

文芸について

林芙美子の『放浪記』について

『葡萄園』（東北大学第二教養部校友会誌）

『塑像』第四号

昭和二十七年四月

フローラの眠り

——堀辰雄のことなど——

昭和二十七年一月二日

『秋田魁新報』

昭和二十八年五月三〇日

植物的人間のこと

——堀辰雄——

『北投石』創刊号

昭和二十八年八月

地方主義的文芸への道 上・下

『秋田魁新報』

昭和二十八年九月二六日
二九日

作文教育に新指標

——第三回作文教育全国協議会開催に寄せて——

『河北新報』

昭和二十九年七月三〇日

第二回東北地区大学学生演劇コンクールのことなど

『北の会』（秋田大学演劇研究会）第二号

昭和三〇年三月

秋田県内の文芸遺産

『秋田魁新報』

昭和三〇年五月二〇日

国文学と美学

『秋田大学芸術研究会会報』第二号

昭和三〇年五月

薔薇の中に

——リルケのことども——

『秋大文学』第六卷第二号

昭和三一年一月〇日

漱石文庫について（上）（下）

『秋田魁新報』

昭和三一年一月三〇日・三十一日

古典と現代女性

『ふじんあきた』第七号

昭和三二年二月二五日

誤っていた演出態度

——「あらくれ」映評——

『東北大学新聞』

昭和三二年六月五日

野中堯作『酷しき神』について

『秋田魁新報』

昭和三二年二月一九日

CMのことば

『東北放送』第九〇号

昭和三二年一月二日

諦念という思想

旧制高校復活論への疑問（萩論評）

秋田県内の同人雑誌評

昭和四一年二月以降、昭和四七年頃まで断続的に掲載

現代への証言を

——真山青果劇場——

外来語の市民権

『演劇復興』第三号（新制作座）

『河北新報』

昭和五〇年六月
昭和五一年四月二日

知的青春としての遺産

——小林秀雄氏を悼む——

『河北新報』

昭和五八年三月二日

Ⅳ 書 評

文芸研究の道標

——岡崎義恵教授著『文芸学概論』——

『秋田魁新報』

昭和二六年六月二四日

学術書に望む

『日本読書新聞』第六一八号

昭和二六年一月七日

岡崎義恵博士編纂『明治文化史・第七卷・文芸編』

『河北新報』

昭和二九年一月二八日

『明治文化史・第七卷・文芸編』について

『近代日本文化』第二卷第一号

昭和二九年二月

影の世代のうた

——須田善昭第一詩集『盲目の自我像』に寄せて——

『秋田魁新報』

昭和二九年九月一七日

評論史の基礎資料

——現代日本文学論争史（上巻）——

『河北新報』

昭和三一年八月五日

松村緑著『薄田泣菫』

『文芸研究』第二八集

昭和三三年三月

川副国基著『近代日本文学論』

『文化』第二四卷第二号

昭和三五年七月

本林勝夫著『斎藤茂吉』

『解釈』第九卷第一号

昭和三八年一月

松村緑著『蒲原有明論考』

『文化』第二九卷第二号

昭和四〇年八月

早稲田大学比較文学研究室『比較文学年誌』第一号

『比較文学』第八卷

昭和四〇年一月二月

早稲田大学比較文学研究室『比較文学年誌』第六号・第七号

『比較文学』第一四卷

昭和四六年一〇月

「秋田語文」創刊号を読んで

『秋田魁新報』

昭和四七年一月二五日

外山滋比古著『日本語の個性』

『諸君！』第八卷第九号

昭和五一年九月

大星光史著・村山陽画『良寛 井月 八一——俳句と人生——』

『俳句とエッセイ』第一六卷第一号

昭和六三年九月

本林勝夫著『斎藤茂吉の研究——その生と表現——』

『日本文芸論叢』第九・一〇合併号

平成五年三月

V 随想・雑筆・その他

配慮の模様 上・下（小説）〈挿絵・柳原久之助〉

『秋田魁新報』

昭和二六年一月二日

車窓盗聞

『秋田魁新報』

昭和二六年一月二六日

シャトオの少年（六号雑記）

『秋田文学』第九号（復刊号）

昭和二六年一〇月

貧しい祈り

『新北仙』

昭和二七年一月一三日

車窓盗聞

『育英』第一九号

昭和二八年三月

雪の中の祖母（詩）

『秋田魁新報』

昭和二九年二月七日

薔薇の回想

『秋商新聞』第二二号

昭和二九年六月

迎春片言

『新北仙』第一八四号

昭和三〇年一月一日

はじめての日の加賀谷先生

——仙台でのこと——

『秋大文学』第五卷第三号

昭和三一年二月

学窓を去りゆく諸君

——編集後記

『秋大文学』第六卷第三号

昭和三二年二月

「ラジオ仙台」の頃

『東北放送』第一一六号

昭和三九年四月

二度歌わされた「君が代」

『ふし』(二〇周年記念誌)

昭和四四年一二月

北住敏夫教授(文学部)のプロフィール

『広報』No.86(東北大学広報委員会)

昭和五一年二月

森へ

『杜の会会報』第二二号

昭和五二年一二月

我が交病録

『宮城県医師会報』第三九六号

昭和五四年一月

生徒会発足の前後

『教育時報』(秋田県教育委員会)

昭和五六年一二月

岡崎義恵先生を悼む

『河北新報』

昭和五七年八月二日

伝聞 神話の中の岡崎先生

岡崎義恵先生御逝去

『杜の会会報』第二七号

昭和五七年一二月

岡崎義恵先生追悼記念会の御案内

『日本文芸論叢』第一号(創刊号)の刊行

『杜の会会報』第二七号

昭和五七年一二月

弱者の人生策

『若杉会報』(秋田県立角館高等学校)昭和五七年度第四号

昭和五八年二月

岡崎義恵先生歌碑(碑陰の文)

昭和五八年六月

ある軌道修正

『回想 岡崎義恵先生』

岡崎義恵先生追悼記念会(代表 菊田茂男)

昭和五八年六月

宮城県泉館山高等学校校歌(作詞)

岡崎義恵先生追悼記念会(代表 菊田茂男)

昭和五八年九月

岡崎義恵先生の歌碑

『回想 岡崎義恵先生』の頒布について

哀悼 奥崎永さん

研究室の近況

『杜の会会報』第二八号
『日本文芸論叢』第三号

昭和五八年一月
昭和五九年三月

研究室の近況

『杜の会会報』第二九号
『杜の会会報』第三〇号

昭和五九年一月
昭和六〇年一月

一冊の本から

——教官アンケート

『東北大学新聞』〈臨時増刊号〉

昭和六一年三月一日

何を学ぶか・文学部国文学科

『螢雪時代』第五六卷第二号

〈四月臨時増刊号、学部・学科案内号〉

昭和六一年四月

きのふ今日とは思はざりしを

『杜の会会報』第三一号

昭和六一年一月

講座紹介・文学科国文学専攻〈談話・筆録者 本橋由美子〉

一九八六年度版『高校生に贈る東北大学』(文学部編)、

高校生に贈る東北大学企画委員会編

昭和六一年一月

何を学ぶか・文学部国文学科

『螢雪時代』第五七卷第二号

〈四月臨時増刊号、学部・学科案内号〉

昭和六二年四月

何を学ぶか・文学部国文学科

『螢雪時代』第五八卷第二号

〈四月臨時増刊号、学部・学科案内号〉

昭和六三年四月

哀悼 北住敏夫先生

『杜の会会報』第三三号

昭和六三年一月

日本の文芸の本質に迫る

——国文学講座——(談話筆録)

『東北大生協ニュース』通巻四一九号

平成元年二月六日

文学部国文学科・何を学ぶか

『螢雪時代』第五九卷第二号

〈四月臨時増刊号、学部・学科案内号〉

平成元年四月

お祝いのごとは(文学部長)

——入り来る人に安らぎを

『純風』一九八九年・春(『東北大学生新聞』第一五五号、平成元年四月一五日から再録)

東北大学・24時間開放された研究室

『螢雪時代』第五九卷第四号 <別冊付録『大学教授のキャンパス日記』>

文学部の中の季節

『杜の会会報』第三四号

宿痾・宿運・運のつき

『ふし』(四〇周年記念誌)

文学部について

一九九〇年度版『高校生に贈る東北大学』(文学部篇)、

高校生に贈る東北大学企画委員会編

学部紹介・文学部(談話)

『東北大学がわかる本』

(『仙台経済界』臨時増刊号)

東北大学の最新研究1・国文学講座菊田茂男教授(談話)

同 右

お祝いのごとは(文学部長)

『東北大学卒業記念アルバム』

大学祭によせて(90東北大学祭会長挨拶)

『90東北大学祭パンフレット』(90東北大学祭全学実行委員会編)

同窓会会員名簿の刊行によせて(東北大学文学部同窓会会長挨拶)

『東北大学文学部同窓会会員名簿』(平成二年度版)

五月の日記断簡

『杜の会会報』第三五号

祝辞(文学部長)

『東北大学卒業記念アルバム』

平成元年四月	『純風』一九八九年・春(『東北大学生新聞』第一五五号、平成元年四月一五日から再録)
平成元年六月	東北大学・24時間開放された研究室
平成元年一月	『螢雪時代』第五九卷第四号 <別冊付録『大学教授のキャンパス日記』>
平成二年一月	文学部の中の季節
平成二年一月	『杜の会会報』第三四号
平成二年一月	宿痾・宿運・運のつき
平成二年一月	『ふし』(四〇周年記念誌)
平成二年一月	文学部について
平成二年一月	一九九〇年度版『高校生に贈る東北大学』(文学部篇)、
平成二年三月	高校生に贈る東北大学企画委員会編
平成二年三月	学部紹介・文学部(談話)
平成二年三月	『東北大学がわかる本』
平成二年三月	(『仙台経済界』臨時増刊号)
平成二年五月	東北大学の最新研究1・国文学講座菊田茂男教授(談話)
平成二年五月	同 右
平成二年五月	お祝いのごとは(文学部長)
平成二年五月	『東北大学卒業記念アルバム』
平成二年十一月	大学祭によせて(90東北大学祭会長挨拶)
平成二年十一月	『90東北大学祭パンフレット』(90東北大学祭全学実行委員会編)
平成二年十一月	同窓会会員名簿の刊行によせて(東北大学文学部同窓会会長挨拶)
平成二年十一月	『東北大学文学部同窓会会員名簿』(平成二年度版)
平成三年五月	五月の日記断簡
平成三年五月	『杜の会会報』第三五号
平成三年五月	祝辞(文学部長)
平成三年五月	『東北大学卒業記念アルバム』

研究室の現況

岡崎義恵先生生誕百年、没後十年祭並びに杜の会物故会員追悼会の御案内

『杜の会会報』第三六号

平成三年一月

不易流行の四十年〈特集「現代学生気質——教官から見た現状と期待——」〉

『広報』No.148(東北大学広報委員会)第一四八号

平成三年一二月

日の名残り

岡崎義恵先生生誕百年、没後十年祭並びに杜の会物故会員追悼会の報告

『杜の会会報』第三七号

平成四年一月

VI 報告・その他

「観ること」——編集後記

『秋大文学』第五卷第一号

昭和三〇年六月

『秋田国語国文』編集後記

『秋田国語国文』第一号

昭和三一年一〇月

規約改正について

『杜の会会報』第四号(復刊第一号)

昭和三四年一〇月

名譽会長の推戴

学生の研究活動

『杜の会会報』第六号

昭和三六年一〇月

岡崎先生古稀記念祝賀会報告

『杜の会会報』第七号

昭和三七年一〇月

国文学科略年表(大正11~昭和39)

『杜の会会報』第九号

昭和三九年一月

学会記録「東北支部報告」

『比較文学』第十卷

昭和四二年一〇月

(以下、『比較文学』及び『日本比較文学会会報』に「東北支部報告」を執筆掲載。掲出は省略)

岡崎先生喜寿記念祝賀会報告

『杜の会会報』第一五号

昭和四五年一月

北住敏夫先生還暦記念祝賀会報告

『杜の会会報』第一七号

昭和四七年一月

新研究室紹介
移転日録抄

『杜の会会報』第一八号

昭和四八年一月

編纂後記

東北大学文学部国文学研究室編『北住敏夫教授退官記念日本文芸論叢』(代表菊田茂男)

笠間書院

昭和五一年一月

北住敏夫教授退官記念論文集の刊行について

『杜の会会報』第二二号

昭和五一年一月

研究室日録抄

『杜の会会報』第二三号

昭和五三年一月

「東北大学国文学会」の発足

『杜の会会報』第二四号

昭和五四年一月

岡崎義恵先生米寿記念祝賀会の発足

『杜の会会報』第二五号

昭和五五年一月

国語問題作成部会の見解

『昭和五六年度共通第一次学力試験の試験問題に関する意見・評価』

大学入試センター

昭和五六年九月

岡崎義恵先生米寿記念祝賀会の中間報告

『杜の会会報』第二六号

昭和五六年一月

岡崎先生御令室の御逝去

『杜の会会報』第二六号

昭和五六年一月

研究近況

——リルケの研究——(談話筆録)

『河北新報』

昭和五八年六月三〇日

第一回岡崎義恵學術研究奨励賞の選考経過と結果の報告

『文芸研究』第一〇七集

昭和五九年一月

宮城県で活躍する秋田の人々(談話要録)

『東北の進路』第三卷第四号

昭和六一年三月

大学生の精神衛生

——その実態と問題点——

『第二回全国大学保健管理研究会東北地方研究集会報告書』

昭和六一年七月

講師の所見「日本古典文芸にみる女性像」
『平成三年度放送利用の大学公開講座に関する実施報告書』（東北大学）

平成四年一月

(注) この『著作目録』は、平成五年一月三十一日現在で作成した未定稿である。『文学・語学』
『比較文学』『日本比較文学学会報』『秋大文学』『昭和文学研究』『国文学年次別論文集』
『国語セミナ』『学燈』『螢雪時代』『高三時代』『朝日新聞』『河北新報』『秋田魁新報』『東
北』（仙台橋正管区文化会）その他に寄稿・掲載したもののうち、未確認・未整理のため、
約五十点を省略せざるをえなかった。